

---

## はじめに

梶 原 義 実

名古屋大学大学院文学研究科 教育研究推進室

本年報『メタプティヒアカ』は、本号で第11号となります。本年度においても、大学院生に対する2本の支援プログラム、フィールド調査に関する支援としての「フィールドワーク調査実習プロジェクト」および、海外国際学会等での発表に対する支援としての「海外渡航費助成費」プログラムを実施し、それぞれ4件・2件の申請を採択いたしました。その成果につきましては本誌に掲載しております。

また、昨年度から実験的に実施しておりましたが、日本学術振興会特別研究員応募者に対しての模擬面接を、教育研究推進室の事業として実施いたしました。昨年度の模擬面接実施者については、一定の成果をあげており、今後もより多くの博士後期課程の大学院生が、学術振興会特別研究員として研究に専念できる環境を整える一助となるよう、事業を継続していきたく思っております。

なお、名古屋大学大学院文学研究科は、平成29年度より、名古屋大学大学院国際言語文化研究科および、国際開発研究科国際コミュニケーション専攻と再編・統合し、あらたに人文学研究科として発足いたします。

そのため、文学研究科教育研究推進室としての刊行物である本誌『メタプティヒアカ』につきましても、本号で最終号ということになります。

しかしながら、上記の大学院生支援事業をはじめ、教員や大学院生に対する教育研究に関するFDやワークショップの開催など、文学研究科教育研究推進室発足以来11年間におこなってきたさまざまな事業は、あらたな人文学研究科にも引き継がれ、継続される予定となっておりますし、その事業報告につきましても、なんらかの形で皆様にお届けできるよう、現在検討中でございます。

これまでの文学研究科教育研究推進室の活動へのご理解・ご協力につきまして、厚く御礼申し上げますとともに、今後の人文学研究科の諸事業につきましても、これまで同様のご支援を賜りますよう、衷心よりお願い申し上げます。